

大桑村母子保健計画

(令和7年度～令和11年度)

大 桑 村

目 次

第1章 計画策定にあたって	1
(1) 策定の趣旨.....	1
(2) 計画の期間.....	1
(3) 基本目標.....	1
第2章 母子保健の統計	2
(1) 出生.....	2
(2) 妊娠・出産.....	3
(3) 死亡.....	4
第3章 目標と施策の推進	5
(1) 思春期の心と身体の健やかな成長を支援.....	5
(2) 安心・安全に妊娠・出産・産後を過ごすことができる環境づくり	7
(3) 子どもたちが健やかに成長・発達する支援.....	8
(4) 親子がいきいきとした生活を送れる育児支援.....	11
参考資料.....	13
健やか親子 21 指標及び目標.....	13

第1章 計画策定にあたって

(1) 策定の趣旨

私たちを取り巻く環境は、少子・高齢化や核家族化のさらなる進行、女性の社会進出の増加、子育て環境や生活習慣の多様化などにより複雑多岐になっています。さらに、母子を取り巻く環境は、公衆衛生施策や医療費水準の向上により、乳児死亡率が世界一低い水準に達した一方、心身の問題などによる不登校や家庭環境の変化によるヤングケアラーなど様々な課題が出てきました。

誰もが安心して子どもを産み育てるために、母子保健の充実が求められることから、妊娠・出産期から学童・思春期に至るまで、新たな課題にも対応していくため、訪問事業や相談事業等を始めとする各種母子保健事業の充実を図り、健やかな笑顔あふれるやさしい村づくりをめざし、この計画を策定します。

(2) 計画の期間

この計画の期間は、令和7年度を初年度とし、令和11年度を最終年とします。また、適宜評価を行い、必要に応じて計画内容の見直しを行いながら推進します。

(3) 基本目標

安心して子育てができるために・・・取り組むべき4つの施策

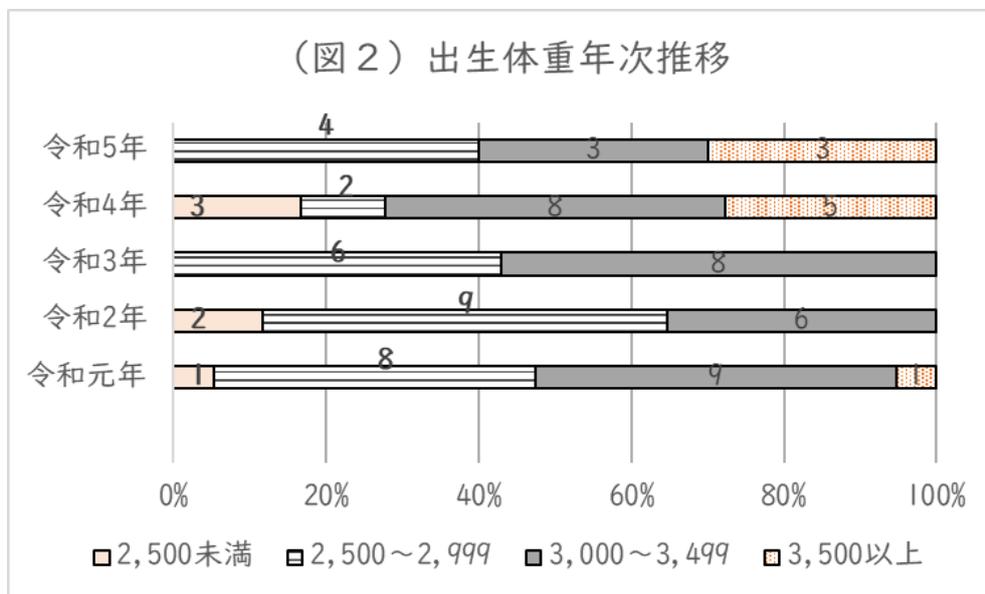
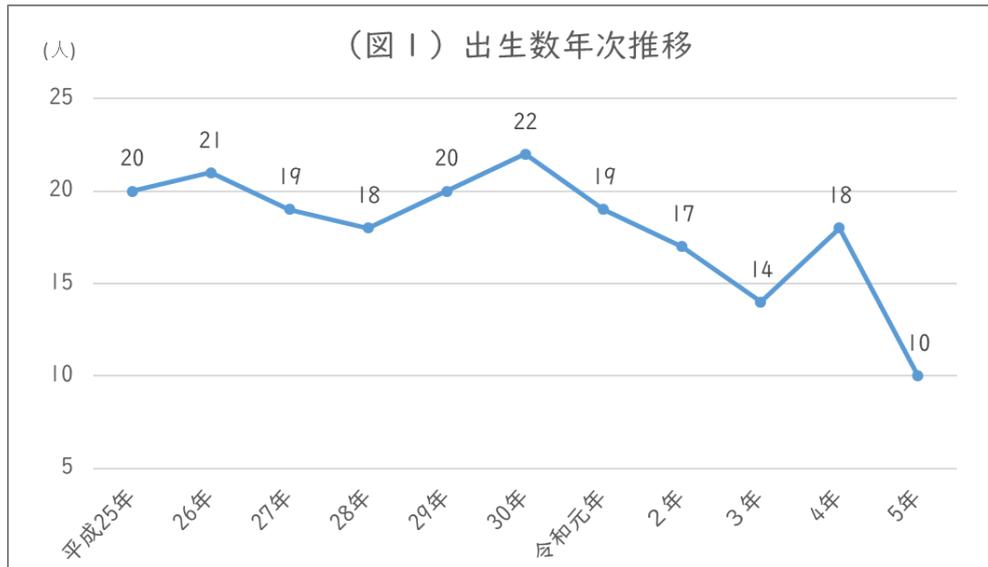
- ・ 思春期の心と身体の健やかな成長を支援します。
- ・ 安心・安全に周産期を過ごすことができる環境づくりに努めます。
- ・ 子どもたちが健やかに成長・発達するための事業を充実します。
- ・ 親子がいきいきとした生活が送れる育児相談などの支援を充実します。

第2章 母子保健の統計

(1) 出生

(表1) 出生数の状況 (1月～12月の計で計上)

H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5
20人	21人	19人	18人	20人	22人	19人	17人	14人	18人	10人

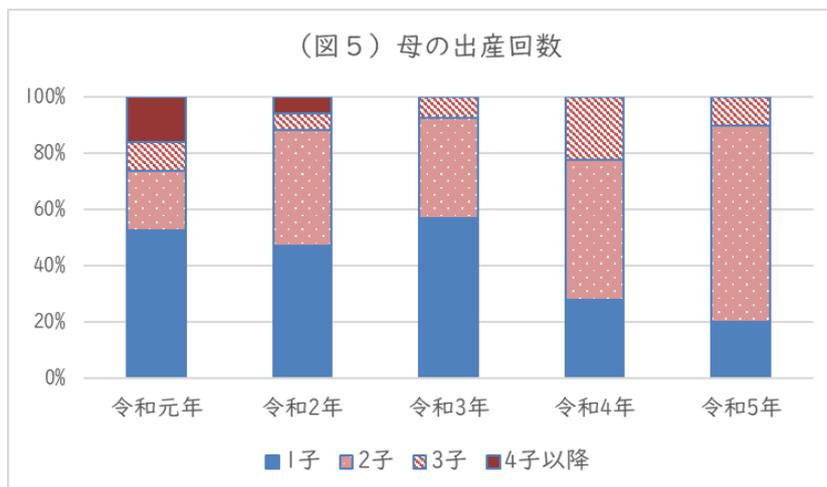
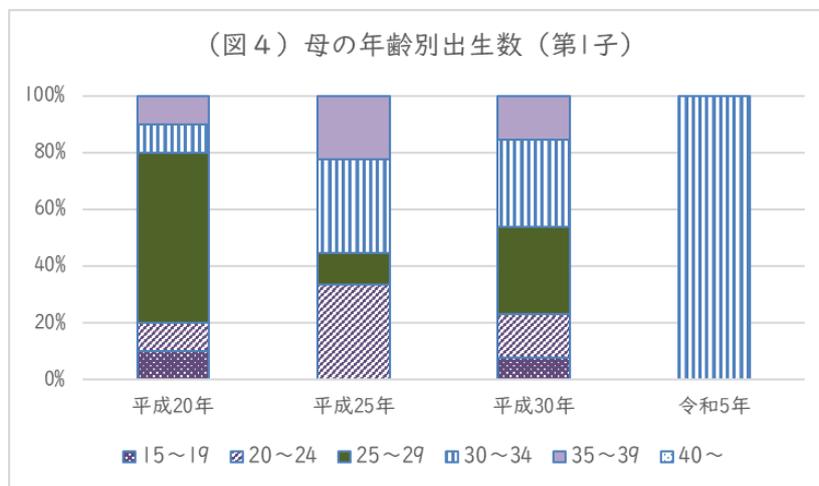
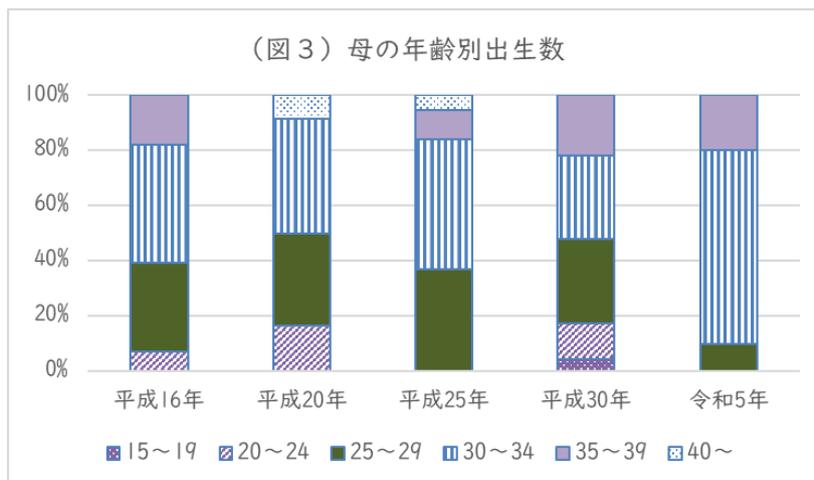


(新生児連絡票より)

出生数は平成25年から上下しながらも20人前後を推移していましたが、令和5年の出生数は10人で、大幅に減少し更なる少子化が懸念されます。(表1、図1)

低出生体重児(2500g未満)が全出生数の1～2割を占めていましたが、ここ数年で1割以下になる年もあり、健康的に生まれる新生児が増えています。(図2)

(2) 妊娠・出産



(母子手帳交付台帳より)

母の年齢別出生数をみると、30歳代が多くみられます。(図3)

第1子出生の母を年齢別で見ると、30歳以降の出産で、20歳代で出産する母の数が減少しています。(図4)

村の出生現状は、第2子、3子を出産する人が多いが、年々第1子を産む人が減っているため、今後出生数の更なる減少が考えられます。(図5)

(3) 死亡

(表2) 乳児及び新生児、周産期死亡数

	乳児死亡	新生児死亡	周産期死亡
平成30年度	0 (1) 人	0 (0) 人	0 (0) 人
令和元年度	0 (0) 人	0 (0) 人	0 (0) 人
令和2年度	0 (0) 人	0 (0) 人	0 (0) 人

() 内の数値は木曾郡内の計
(母子保健推進センター 長野県の母子保健 令和2年～令和4年より)

長野県は、乳幼児死亡及び新生児死亡が全国の中でも低い状況で、当村も同様の傾向にあります。

第3章 目標と施策の推進

(1) 思春期の心と身体の健やかな成長を支援

ライフサイクルの中で、思春期は、心身発達の目覚ましい時期であるとともに、不安定になりやすい時期でもあります。次世代を担う人として、豊かな自己を創り上げる大切な時期である思春期に寄り添い、心身の健康に関する知識の普及や相談活動、不安の解消、自分を大切にできる力や自らの健康管理を維持する力を支援します。

(表3) むし歯保有率

	令和元年度	令和5年度
小学生	12.2%	6.3%
中学生	5.5%	2.1%

(令和5年度 学校保健委員会資料より)

むし歯保有率は小中学生ともに減少しています。

(表4) 肥満傾向の児童・生徒の割合

	平成30年度	令和5年度
小学生(村内)	5.7%	7.0%
(郡内)	5.4%	8.7%
中学生(村内)	10.4%	9.1%
(郡内)	7.5%	7.2%

※ローレル指数が160以上

(令和5年度 学校保健委員会資料より)

肥満傾向の小学生は増加傾向にあります。中学生も肥満傾向の割合が高く、郡の肥満傾向の割合より高い状況になっています。

(表5) 朝食を欠食する児童・生徒の割合

	平成30年度	令和5年度
小学生 低学年	12.3%	10.0%
高学年	9.3%	12.0%
中学生	6.4%	4.2%

(令和5年度 学校保健委員会資料より)

小学生低学年と中学生は欠食する人が減ってきているが、小学校高学年は増加しています。

(表6) 起床時間 7時以降に起床する児童・生徒の割合

	令和元年度	令和5年度
小学生 低学年	5.3%	2.5%
高学年	3.7%	2.0%
中学生	2.7%	6.2%

(令和5年度 学校保健委員会資料より)

(表7) 就寝時間 小学生は21時以降に就寝する児童の割合
中学生は22時以降に就寝する生徒の割合

	令和元年度	令和5年度
小学生 低学年	56.2%	50.0%
高学年	79.6%	82.0%
中学生	85.1%	81.2%

(令和5年度 学校保健委員会資料より)

起床時間は小学生低学年、高学年ともに7時以降に起きる人が減少していますが、中学生は増加しています。

就寝時間は小学生高学年が21時以降に就寝する人が増加しています。

○現状と課題

小中学生の起床状況は大多数が7時前に起床していますが、中学生は7時以降に起床する人が増加しています。(表6) 就寝状況は小学生低学年では半数が21時より前に就寝し、学年が上がるほど21時以降の就寝割合が高くなっています。中学生では8割が22時以降に就寝しています。(表7)

生活リズムの乱れは心と身体に悪影響を与える可能性があります。生活リズムを整えることで、心の安定も図られます。よい生活リズムを身につけるため、家庭や地域が一体となって取り組んでいくことが大切です。また、心の健康について理解を深められるよう啓発していくことが必要です。

目指す姿	取組
命の大切さを知り、自分・相手を大切にできる	乳幼児と中学生のふれあい体験を実施します。 中学生の思春期セミナーを実施します。
相談できる場所を知っている	中学生のSOSの出し方講座を継続開催します。
生活リズムを整える	幼少期からの生活リズムの大切さを、乳幼児健診、離乳食教室等で啓発します。 児童・生徒の健康状態を学校と共有します。

(2) 安心・安全に妊娠・出産・産後を過ごすことができる環境づくり

少子化の中、乳幼児に接したことがないまま妊娠出産を迎える夫婦が多く、子どもがいる生活に戸惑う姿が見られます。妊婦だけでなく家族を含め安心・安全な妊娠、出産のための環境づくりと切れ目ない支援を実施していきます。

(表8) 妊娠・出産について満足している人の割合

平成30年度	令和5年度
100%	92.9%

(4か月児健診アンケートより)

※「産後、退院してから1か月程度、助産師や保健師等からの指導・ケアは十分に受けることができました。」の項目に「はい」と回答した人の割合で集計。

(表9) 妊娠11週以下での妊娠届の届出率

令和元年度	令和5年度
94.4%	93.8%

(母子手帳交付台帳より)

※厚生労働省は妊娠11週までに母子手帳の交付を受けることを推奨しており、推奨値で集計

(表10) 不妊に悩む人への支援事業

令和元年度	令和5年度
0件	1件

(不妊治療助成申請数より)

○現状と課題

妊娠・出産について満足している人の割合が低下し、何らかの不満や不安を抱えている人が現れています。(表8) 出生数が低下し、妊婦同士の交流する機会も減少していることから、妊娠・出産・子育ての不安につながっていると考えられます。

医療機関との連携を密にし、妊産婦の孤立を防ぎ不安の解消に努めます。

目指す姿	取組
不満や不安の解消	母子手帳発行時に保健師・栄養士による初回面接を行います。 母子手帳アプリで情報を提供します。 マタニティクラスを開催します。 周産期医療への支援を検討します。 医療機関への受診について不安を解消するため、相談方法を検討します。 医療機関での産後ケアを実施します。 乳房相談を実施します。 産前産後サポート会議を継続開催します。

健康に過ごす	<p>パパママ学級を開催します。</p> <p>妊産婦健診費用の助成をします。</p> <p>妊婦・産後1年の福祉医療の助成をします。</p>
不妊・不育症の不安軽減	不妊・不育症の助成・相談を実施します。

(3) 子どもたちが健やかに成長・発達する支援

ライフスタイルの多様化、核家族の増加、女性の社会進出など子育てを取り巻く環境が変化していることから、育児支援もそれぞれに合った対応が必要です。子どもたちが、健やかに成長発達できるよう、保護者が子どもの成長やその時期の発達を知り、毎日の生活の中で実践できるように正しい知識と情報を提供していきます

保護者と子どもの交流の場を提供し、豊かな心の発育を促進するなど、村ぐるみの子育てや子育ての知識を得る機会をつくり、健康の維持増進が図れるよう支援していきます。

(表 11) おし歯保有率

	平成 30 年度	令和 5 年度
1 歳 6 か月児	0%	0%
3 歳児	6.0%	5.3%
5 歳児	37.5%	16.7%

(幼児健診、保育園歯科検診結果より)

3 歳児、5 歳児ともにおし歯保有率は減少しています。

(表 12) 仕上げ磨きをする親の割合

	平成 30 年度	令和 5 年度
1 歳 6 か月児	100%	100%
3 歳児	100%	100%

(幼児健診より)

1 歳 6 か月児、3 歳児ともに仕上げ磨きはできています。

(表 13) 乳幼児健康診査受診率

	平成 30 年度	令和 5 年度
4 か月児	100%	100%
1 歳 6 か月児	100%	100%
3 歳児	100%	100%

(乳幼児健診より)

乳幼児健康診査は全員が受診できています。

(表 14) 予防接種を終了している人の割合

	平成 30 年度	令和 5 年度
BCG	100%	100%
4 種混合	94.1%	100%
麻疹・風疹	94.1%	100%

(予防接種台帳より)

予防接種はほぼ全員接種ができています。

(表 15) 肥満傾向児の割合

	平成 30 年度	令和 5 年度
保育園児	3.8%	5.8%

※カウプ指数が 18 以上

(保育園身体計測結果より)

保育園児は肥満傾向児の割合が増加しています。

(表 16) 起床時間 7 時以降に起床する児の割合

	平成 30 年度	令和 5 年度
1 歳 6 か月児	5.6%	52.6%
3 歳児	5.9%	50.0%

(表 17) 就寝時間 21 時以降に就寝する児の割合

	平成 30 年度	令和 5 年度
1 歳 6 か月児	0%	68.4%
3 歳児	33.0%	75.0%

(幼児健診より)

起床・就寝時間ともに遅い子どもが大幅に増加しています。

○現状と課題

睡眠状況を見ると起床・就寝時間共に遅くなってきている子どもが増えてきている状況にあり、生活リズムが乱れていることが読み取れます。(表 16、17) 生活リズムの乱れが心と身体に悪影響を与える可能性があります。生活リズムを整えることで、心の安定も図られます。よい生活リズムを身につけるため、家庭や地域が一体となって取組んでいくことが大切です。

目指す姿	取 組
村ぐるみでの子育て支援	パパママ学級を開催します。 乳幼児と中学生のふれあい体験を実施します。
親が子どもの健康状況を知る	乳幼児健診を実施します。 新生児聴覚検査費用を助成します。 先天性代謝異常検査を助成します。

<p>子育ての知識・技術を得る</p>	<p>離乳食教室、お誕生相談、2歳虫歯予防教室を開催します。 母子手帳アプリを活用して情報の提供をします。 各種相談事業を実施します。</p>
<p>心豊かな子どもを増やす</p>	<p>図書館、まめっこ図書の利用を促進します。 図書館と連携し、読みきかせ事業を実施します。</p>
<p>生活リズムを整える</p>	<p>健診や各種教室で睡眠の重要性などの情報を提供します。</p>
<p>感染症の予防</p>	<p>定期予防接種の未接種者への接種勧奨を行います。 任意予防接種（インフルエンザ、おたふくかぜ）の周知・啓発と費用を助成します。</p>
<p>口腔衛生が保てる</p>	<p>幼児健診、離乳食教室、お誕生相談、2歳虫歯予防教室を実施します。 保育園での希望者へのフッ素塗布を実施します。</p>

(4) 親子がいきいきとした生活を送れる育児支援

核家族化により子育て世代の孤立状況が見受けられ、子育てへの不安や悩みを抱えて生活する保護者が少なくありません。不安や悩みを軽減し、いきいきとした生活を送りながら育児に取り組める支援が求められてきています。

子育てに自信をもって暮らすことができるよう、保護者の意見を聞き取る相談の場を設け、関係機関や地域が一体となって、より子育てしやすい環境を作り上げます。

(表 18) この地域で子育てをしたいと思える保護者の割合

	平成 30 年度	令和 5 年度
4 か月児	100%	100%
1 歳 6 か月児	82.4%	94.7%
3 歳児	94.1%	100%

(表 19) 積極的に育児をしている父の割合〈主に母が回答〉

	平成 30 年度	令和 5 年度
4 か月児	66.7%	85.7%
1 歳 6 か月児	70.6%	61.1%
3 歳児	68.8%	73.7%

(表 20) ゆったりとした気分で子どもと過ごせる時間がある母の割合

	平成 30 年度	令和 5 年度
4 か月児	94.4%	92.9%
1 歳 6 か月児	82.4%	94.4%
3 歳児	70.6%	75.0%

(表 21) 育てにくさを感じた時に対処できる保護者の割合

	平成 30 年度	令和 5 年度
4 か月児	100%	100%
1 歳 6 か月児	100%	66.7%
3 歳児	90.0%	77.8%

(乳幼児健診アンケートより)

子どもとゆとりをもって過ごせると感じる母が増えている一方、育てにくさを感じた時に対処できると回答した保護者が減っています。(表 20、21)

○現状と課題

育てにくさを感じた時に対処できない保護者が増えることで虐待につながる恐れが考えられます。相談窓口の一層の充実を図り、不安や悩みの解消をし、安心して子育てができる環境を整える必要があります。

目指す姿	取組
不安や悩みを相談できる	助産師、保育士による新生児訪問を実施します。 保健師による3か月児訪問を実施します。 関係機関と連携します。
子育て環境の整備	子育て支援センター事業を充実させます。 子育て世代包括支援センター事業での切れ目ない支援を実施します。 こども家庭センター設置を検討します。
母親自身の健康管理ができる	育児ママ健康応援保育・育児ママリフレッシュ保育を実施します。

参考資料

健やか親子 21 指標及び目標

課題名	指標名	前回計画最終値 H30年度	今回計画最終年度 R5年度	評価 区分	目標 R11年度	
切れ目ない妊産婦・乳幼児への保健対策	妊産婦死亡率	0人	0人	A	0人	
	低出生体重児の人数	1人 (R元年度で集計)	0人	A	0人	
	妊娠・出産について満足している者の割合	100%	92.9%	B	100%	
	幼児、児童、生徒のむし歯保有率	1.6歳児：0% 3歳児：5.9% 保育園：15.6% 小学生：26.0% 中学生：15.1% (R1)	1.6歳児：0% 3歳児：5.3% 保育園：10% 小学生：15.5% 中学生：6.3%	A	1.6歳児：0% 3歳児：0% 保育園：5% 小学生：10% 中学生：5%	
	妊娠中の妊婦の喫煙率	0%	0%	A	0%	
	育児期間中の両親の喫煙率	父親	父親	父親	B	4か月児：20% 1.6歳児：30%
		4か月児：29.4%	4か月児：28.6%	4か月児：28.6%		
		1.6歳児：64.7%	1.6歳児：42.1%	1.6歳児：42.1%	A	0%
		母親	母親	母親		
	4か月児：0%	4か月児：0%	4か月児：0%			
	1.6歳児：0%	1.6歳児：0%	1.6歳児：0%			
	妊娠中の妊婦の飲酒率	0%	0%	A	0.0%	
	乳幼児健康診査の受診率	4か月児：100%	4か月児：100%	A	100%	
		1歳6か月児：100%	1歳6か月児：100%			
		3歳児：100%	3歳児：100%			
	小児救急電話相談(＃8000)を知っている親の割合	88.2%	85.7%	B	90%	
	子どものかかりつけ医(医師、歯科医師等)をもつ親の割合	(医師)	(医師)	B	100%	
		4か月児：94.1%	4か月児：100%			
		3歳児：82.4%	3歳児：85.0%	B	40%	
		(歯科医師)	(歯科医師)			
	3歳児：23.5%	3歳児：35.0%				
仕上げ磨きをする親の割合	1.6歳児：100%	1.6歳児：100%	A	100%		
	3歳児：100%	3歳児：100%				
周産期死亡率	0%	0%	A	0%		
新生児死亡率、乳児(1歳未満)死亡率(出生千対)	0%	0%	A	0%		
妊娠11週以下での妊娠の届出率	94.4%(17/18) R元年度で集計	93.8%(15/16)	C	100%		
産後1か月でEPDS9点以上の褥婦の人数	未実施	0人	A	0人		
1歳までにBCG接種を終了している者の割合	100%	100%	A	100%		
1歳6か月までに四種混合・麻疹・風疹の予防接種を終了している者の割合	四種混合：94.1%	四種混合：100%	A	100%		
	麻疹・風疹：94.1%	麻疹・風疹：100%				
学童期・思春期から成人期に向けた保健対策	児童・生徒における肥満傾向児の割合	保育園：3.8% 小学校：5.7% 中学校：10.4% *保育園：カウプ指数18以上 *小・中学校：ローレル指数160以上	保育園：5.1% 小学校：7.0% 中学校：9.1% *保育園：カウプ指数18以上 *小・中学校：ローレル指数160以上	D	保育園：3% 小学校：5% 中学校：5%	
	朝食を欠食する子どもの割合□	小学生：低学年：12.3% 高学年：9.3% 中学生：6.4% *小・中学校 (R元年)	小学校：低学年：10% 高学年：12% 中学生：4.2%	B	保育園：5% 小学校：5% 中学校：5%	
	子どもの生活リズム 1.6歳、3歳のデータは平成30年度 小・中学生のデータは令和元年度	【起床時間：7時以降】 1.6歳：5.6% 3歳：5.9% 小低学年：5.3% 小高学年：3.7% 中学生：2.7%	【起床時間：7時以降】 1.6歳：52.6% 3歳：50.0% 小低学年：2.5% 小高学年：2.0% 中学生：6.2%	D	1.6歳：25% 3歳：25% 小低学年：0% 小高学年：0% 中学生：5%	
		【就寝時間以降】21時以降 中学生は22時以降 1.6歳：0% 3歳：33.0% 小低学年：56.2% 小高学年：79.6% 中学生：85.1%	【就寝時間以降】21時以降 中学生は22時以降 1.6歳：68.4% 3歳：75.0% 小低学年：50% 小高学年：82% 中学生：81.2%	D	1.6歳：50% 3歳：50% 小低学年：25% 小高学年：40% 中学生：40%	
	思春期保健対策の実施	【自殺防止対策】 SOSの出し方講座：1回	【自殺防止対策】 SOSの出し方講座：1回	A	維持	
【性に関する指導】 乳幼児ふれあい体験：2回 思春期セミナー：1回		【性に関する指導】 乳幼児ふれあい体験：2回 思春期セミナー：1回				

成長を 見守り 育む 地域づくり	この地域で子育てしたいと思う親の割合	4か月児：100%	4か月児：100%	A	100%
		1歳6か月児：82.4%	1歳6か月児：94.7%		
		3歳児：94.1%	3歳児：100%		
育てにくさを 感じる 親に 寄り添う 支援	積極的に育児をしている父親の割合	4か月児：66.7%	4か月児：85.7%	B	100%
		1歳6か月児：70.6%	1歳6か月児：61.1%		
		3歳児：68.8%	3歳児：73.7%		
育てにくさを 感じる 親に 寄り添う 支援	ゆったりとした気分で子どもと過ごせる時間がある母親の割合	4か月児：94.4%	4か月児：92.9%	B	100%
		1歳6か月児：82.4%	1歳6か月児：94.4%		
		3歳児：70.6%	3歳児：75.0%		
	育てにくさを 感じた時に 対処できる 親の割合	4か月児：100%	4か月児：100%	D	80%
		1歳6か月児：100%	1歳6か月児：66.7%		
		3歳児：90.0%	3歳児：77.8%		
妊 娠 期 か ら の 児 童 虐 待 防 止 策	対象家庭全てに対し、乳児家庭全戸訪問事業の実施	実施	実施	A	維持
	養育支援が必要と認めたすべての家庭にする養育支援訪問事業の実施	実施	実施	A	維持

※健やか親子21（第3次）

平成13年から開始され、母子の健康水準向上のため国が策定した国民運動計画である。

子どもの成長や発達に関して、子育て当事者である親や養育者が正しい知識を持つとともに、学校や企業等を含めた社会全体で親やこどもの多様性を尊重し、見守り、子育てに協力していくことができるよう国民全体の理解を深めるために普及啓発していく。

すべての子どもが健やかに育つ社会に向かって、3つの基盤課題の設定と2つの重点課題

基盤課題A： 切れ目のない妊産婦・乳幼児への保健対策

基盤課題B： 学童・思春期から成人期に向けた保健対策

基盤課題C： 子供の健やかな成長を見守り育む地域づくり

重点課題①： 育てにくさをを感じる親に寄り添う支援

重点課題②： 妊娠期からの児童虐待防止対策